

◆ 「第35回こうべ福祉・健康フェア」でバリアフリー教室を開催しました

神戸運輸監理部交通みらい室では、兵庫県内の小中学生を対象にバリアフリー教室を開催しており、自ら高齢者や障がい者の疑似体験や介助体験をすることで、バリアフリーの必要性を理解するとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や障がい者に対して自然に快く「お手伝いしましょうか」と声をかけてサポートのできる「心のバリアフリー」を推進しています。

今回は、令和6年10月6日（日）に、神戸市北区の「しあわせの村」において実施された「第35回こうべ福祉・健康フェア」にブースを出展し、「バリアフリー教室」を開催しました。

バリアフリー教室では、「車いす体験」、「視覚障がい者疑似体験」、「高齢者疑似体験」を行いました。ブースには、子ども連れを中心に約200名もの方々がお越しになりました。



【監理部出展のブース】



【車いす体験の様子】

車いす体験では、監理部の職員が車いすの基本的な操作方法の説明をした後、参加者は実際に車いすに乗って、ブースの周辺を移動しました。

車いすに乗ったことがない参加者が多かったことから、今回の体験を通して、車いすの安全な使い方や困っている利用者への介助方法等について理解を深めました。

視覚障がい者疑似体験では、視覚障害体験ゴーグルを着用して周りを見たり、「迷路」に挑戦したりすることで、見え方の違いを体験しました。

多くの参加者がゴーグルを着用しての迷路体験に苦戦している様子でした。また体験を通じて、症状によっては見えにくい色があるということを学びました。



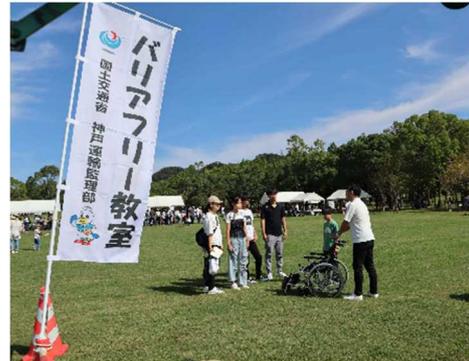
【視覚障がい者体験の様子】



【高齢者疑似体験の様子】

高齢者疑似体験では、高齢になるにつれて身体が思うように動かせなくなることを説明するとともに、軍手や疑似体験用グローブを着用した状態での折り紙体験をしてもらいました。

指先を動かさずらい状態では折り紙をきれいに折ることは難しく、また時間もかかるため、高齢者について知るよいきっかけとなりました。



本教室で、障がい者・高齢者の気持ちを理解するとともに適切な介助方法を学ぶことで、日頃からお手伝いしようという気持ちを持つことができました。

交通みらい室では、今後も様々な取り組みにより、「心のバリアフリー」の推進を図っていきます。

(企画推進本部 交通みらい室)